

真駒内駅前地区のまちづくり

【再編コンセプトの整理について】

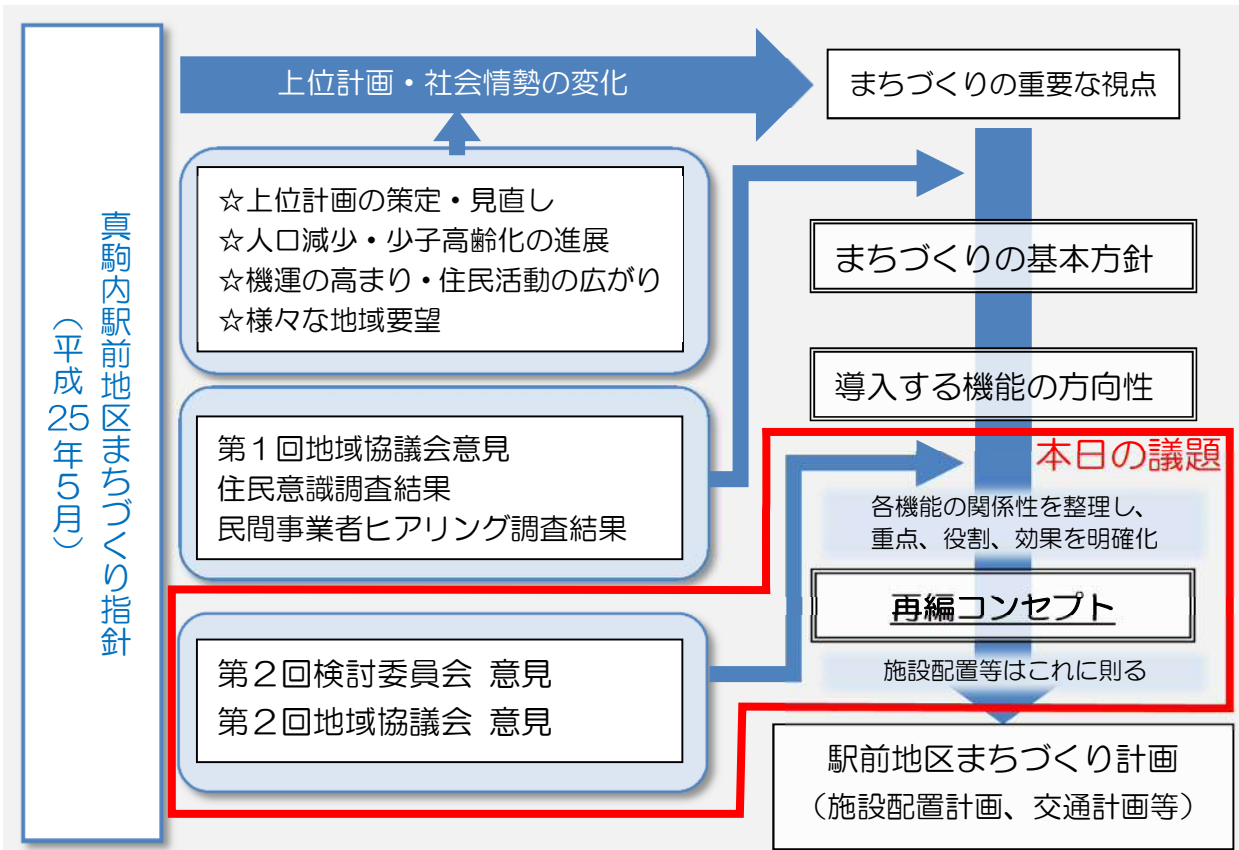
第3回 真駒内駅前地区まちづくり検討委員会

令和2年3月13日（金）
札幌市まちづくり政策局
都市計画部

真駒内駅前地区のまちづくり

1. 検討フロー・本日の議題の整理

(1) 検討フロー



2. 前回委員会の振り返り

(1) 基本方針・導入する機能の方向性 (事務局提案)

基本方針1：“地域独自の魅力を活かした特徴あるまち”の拠点

- (1) 豊かなみどりを感ずる街並みの形成
- (2) 駅前にふさわしい公共空間の充実
- (3) スマートコミュニティのモデル地区を形成

基本方針2：“あらゆる世代が豊かに暮らせる持続可能なまち”の拠点

- (1) 子育てしやすい環境の実現
- (2) 民間活力の導入
- (3) 駅前にふさわしい公共空間の充実 (再掲)

基本方針3：“歩いて暮らせるまち”の拠点

- (1) 行政・公共サービス機能を駅に近づけて配置
- (2) 民間活力の導入 (再掲)
- (3) 歩行者ネットワークの創出
- (4) 交通結節機能の再編

(2) 主な意見

<議題1>基本方針・導入する機能の方向性について

住民の利便性向上に関するもの

- 南区全体を考えると、高齢者福祉の観点も含めて、駅前に直結した商業施設をつくらせて欲しいというのが南区住民の願いであり、併せて直結した公共施設もあれば人は集まると思う。
- 真駒内駅周辺に生活利便機能が集約し、公共交通を使えば、自家用車がなくても暮らせるような地域づくりを考えていくと良い。
- 高齢者や障がいを持たれている方だけでなく、ベビーカーを使う子育て世代を含めた幅広い世代に対して優しい歩行環境を実現して欲しい。
- 時間を有効に使える、機能的かつ高効率なまちになっていると、子育て世帯や高齢者世帯等のあらゆる世帯に魅力的なまち、豊かに暮らせるまちとして映るのではないかと。

地域独自の魅力・資源に関するもの

- 真駒内駅正面の駅前通りの景観は、他の地域にはない唯一無二の資源であり、これを活かしながら様々な世代に喜ばれるまちをつくらせていく必要がある。
- 真駒内は、利便性は低いかもしれないが、居住環境の質がそれを補っていると思うので、そうした魅力を計画の中で評価し、維持していくことを考えていければ良い。

検討の進め方に関するもの

- 交通結節機能の議論を行ううえで、将来的なモビリティサービスの需要側、供給側の状況を把握するために、将来人口推計の年齢構成を確認した方が良い。 配布資料5
- 「真駒内のあの景観が良い」など、真駒内らしいキーワードが入ってくると、良いのではないかと。
- 大きなハードに関しては30年くらいの長期スパンを持ちながら、5年や10年の間で変えても良い部分についてどう考えるか、計画の進捗の中で管理していく必要があるのではないかと。
- 真駒内は生活者にとっての魅力と、観光など利用者にとっての魅力は恐らく違うのだと思う。また、交通利便性についても近くに住んでいる人と、遠くに住んでいる人や観光客等では別の視点であると思われるので、それらをきめ細かく見ていく必要がある。
- 官民連携 PPP 等、民間事業者の活力をどう活用するか考える必要がある。 サウンディング調査を行うと検討の精度を高めることができるのではないかと。

真駒内駅前地区のまちづくり

<議題2> 駅前地区における交通結節機能について

バスに関するもの

- バスの利用者や便数が多いにも関わらず、屋外の寒い中でバスを待つ環境や、バスから地下鉄へ乗り換える際の移動環境は非常に悪く、改善が必要。
- 市内の他の駅で時代とともに考え方を変えながらバスターミナルや交通広場が整備されてきたことから見ても、真駒内駅はバスの接続の考え方が時代的に古いままであり、バスと地下鉄の接続の改善が必要である。
- バス運行の観点から、バス待機場の確保は必要になる。
- バス業界ではドライバー不足は深刻な問題であるため、短い運行時間で済む地下鉄駅短絡というのが、今後非常に大きな要素となってくる。

タクシーに関するもの

- タクシーに関して、現状では駅前の近くで降車できる場所がないため、高齢者や車いすの方のことを考えると、乗り場と降り場を分離しても良いので、駅に近接した降車場所をしっかりと確保する必要がある。
- タクシーに関する現状の問題として、乗降に時間を要する車いす対応タクシーの乗降スペースや、高齢者の方、障がいを持たれた方が安全にタクシーを降車できるスペースが駅の直近にない状況である。

歩行者動線に関するもの

- 現実に出来るかどうかは別だが、駅利用者の歩行者の動線と平岸通の動線とを上下で多重化するようなことも含めて、結節点をどうするかということを考えてみてはどうか。
- 凍結した平岸通の横断は非常に危険で改善が必要。

自転車に関するもの

- 現在分散している駐輪場も、駅との接続面で重要視していく必要がある。また、周辺のネットワークも含めた在り方を示せると良い。

まちづくり全体の考え方に関するもの

- バス運行情報等に関するオープンソース化等のソフト面での対策や、駅の改札からバス停へ乗り継ぐ動線を観光客にも分かりやすく地面のカラーリング等で示すことも重要である。
- 駅前でバス、タクシー、自家用車のアクセス性が向上すれば、人の滞留につながる。
- 真駒内駅との一体的な開発、あるいは地上の使い方を工夫して、もう少し人を優先した場所にしていくようなことを考えると良い。

住民視点

3. 第2回地域協議会 実施結果

(1) 実施概要

開催日時：令和元年8月23日（金）18：30～20：30

開催場所：まこまる（旧真駒内緑小学校）2階まちの講堂
（南区真駒内幸町2丁目2-2）

参加者：14名

（連合町内会、地域のまちづくり活動団体、商店街、社会福祉協議会、真駒内地域に居住している子育て世代（小・中学校PTAなど）、札幌市立大学の学生）

内容：①「駅前地区に導入する具体的な機能」②「具体的な機能の効果・実現の課題」についてワークショップ形式により参加者同士で議論

(2) 主な意見と方向性の確認

キーワード

「生活利便施設」「歩いて楽しいまち」
「交通結節点としての機能向上」
「人が集まる場（広場）」「子供の遊び場」
「南区の魅力発信の場」「コミュニティ空間」
「持続的なまちづくりを支える仕組み」

配布資料⑥：「基本方針」「導入する機能の方向性」との整合を確認

当日の様子



4. 再編コンセプトの検討

「導入する機能の方向性」と上記で出された意見を整理し、再編コンセプトを作成。

⇒ 詳細：**配布資料7**

※1 (1) 検討フローの抜粋

第2回検討委員会 意見（上記2）
第2回地域協議会 意見（上記3）

導入する機能の方向性

各機能の関係性を整理し、
重点、役割、効果を明確化

再編コンセプト

5. 今後について

- ✓ 今後、小中学校一体整備についての地域への情報提供・説明の後、施設配置計画の議論を行い、まちづくり計画を策定していく。
- ✓ 今回整理した「再編コンセプト」は真駒内中学校の動向に関わらず、活用可能。